

# 健康への



シリーズ 69

## 薬の服用

光町のみなさんこんにちは。今回は薬の服用についてお話ししたいと思います。

外来を患者さんが受診されたときに「これなら特に薬をのむ必要はないですよ」とお伝えすると「それは心配だから（あるいはせつかく来た甲斐がないから）何か薬をください」と言われることがあります。また「この状態でしたら薬をお出ししますから飲んでください」とお伝えすると、さつきとは逆に「薬はのみたくないのでもう少し薬ナシで様子を見させてください」と言われることもあります。最近はこちらかという後者の薬をのみたがらない患者さんが多くなっているような気がします。薬というのは必要なときにだけ服用すべきものですから、どちらが良いわけでもないのですが、薬にばかり頼らない「薬漬け」の傾向でない状況はどちらかという好ましいと私個人では考えています。

何か薬をくださいという方は、薬としては良くなるのではないのか、早く良くしたい、と考えている方が多いかと思えます。（中にはせつかく病院まで来たのだから何か薬ぐらいいもらわないと、という方もいるかもしれません）確かに（お気持ちはよくわかるのですが）薬をのんだからと言って必ずしも早く良くなるとは限りませんし、高血圧や糖尿病などの慢性の病気の場合は食事や運動など

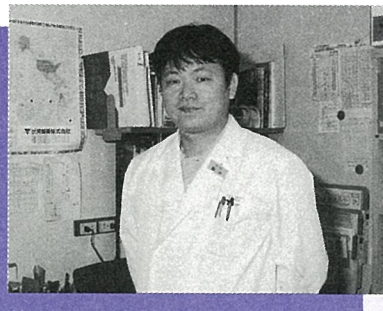
の生活習慣を改善することで薬なしでもよくなる場合も多いのです。また食事などを頑張ってみたがあまり変わりがなかったという場合には、その時にはじめて薬をのむことで十分間に合うケースの方が多いのです。次に薬をのみたくないという方ですが、こちらには二通りの理由があるように思います。一つは薬の副作用がこわいという方です。確かにどんな薬にも副作用の可能性はありますし、重症になってしまう場合もあります。しかし薬をのみなければ改善することが難しい病状は間違いなくあります。薬をのみことによる危険もあるかもしれませんが、のまずに放置しておくことの危険の方がはるかに高いからこそ薬をお出しするのですから。

もう一つは高血圧などの慢性の病気に薬をのみ始めると、もう一生薬をのみなければならぬのでのみたくないという方です。慢性疾患で薬をのみ始める方は、やはりその後継続して服薬を続けるケースは多いです。しかしその中には徐々に安定してきて薬を止められる方も少数ながらいえます。薬を飲み続けることは確かにおっくうですし、憂鬱なものかも知れませんが、放置して過ごす危険を考えれば、必要な薬はやはりのんでいた方がいいと思います。不要な薬をのみことは厳に慎むべきです。それと同時に必要な薬はきちんとのおむよう心掛けていただきます。

※東陽病院の休日当番日

8月22日(日) 午前9時～午後5時

医師2名が待機・来院の際は電話を ☎84 1335



東陽病院 鈴木 健士 内科医師

### 夏休みに読もう！ =おすすめする おもしろい本=



●低学年

『番ねずみのヤカちゃん』 リチャード・ウィルドー／作 福音館書店  
 『なぞなぞの好きな女の子』 松岡享子／作 学研  
 『ピーナッツなんきんまめらっかせい』 こうやすすむ／文 福音館書店

●中学年

『けつこんをしたがらないリスのゲルランゲ』J・ロッシュ＝マゾン／作 福音館書店  
 『盲導犬グレフ誕生物語』 パトリシア・カーチス／文 小学館  
 『河童よ、出てこい』 武田正／文 福音館書店

●高学年

『冒険者たち』 斎藤惇夫／作 岩波書店  
 『トイレまちがえちゃった！』 ルイス＝サッカー／作 講談社  
 『イワシの話』 平本紀久雄／著 らくだ出版



ほんの

＝町立図書館＝  
 ☎84 3311



自由研究の本も  
 たくさん用意してあります

8月の休館日 9日(月)、16日(月)、23日(月)、30日(月)